

Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2023



Contents ー目次ー

1. Reports ー和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告ー
2. Topics ー過去のイベントとニュースー
3. Future Events ー今後のイベント紹介ー

■ LPP で築いた地域との繋がりを展開したプロジェクト活動

藤本 多敬さん (12期生 (2023年3月卒業) / 開智高等学校 (和歌山県) 出身)



「地域のお手伝いをして地域に貢献したい！」

観光学部に入り、地域再生に取り組みたい人なら、きっと感じたことのあることだと思います。私は大学生活を通して地域に役立つことをして、地域に何らかの結果を残したいと思い、大学に入学しました。しかし、大学生活を通してその難しさを痛感したのと同時に、地域と関わり続ける中でその実現への糸口を学ぶことができたと思っています。むしろ、私にとっては地域と関わる中で学びが、大学生活における最大の学びと言っても過言ではないかもしれない…！

私は大学1年次に参加したLPP(地域連携プログラム)がきっかけで、色川(和歌山県東牟婁郡那智勝浦町)という地域に大学生活の5年間(休学期間を含む)を通して、関わり続けました。色川は山奥にある人口約300人の地域。私にとって緑もゆかりもない地域でしたが、初めて訪れた時に地域の風景の美しさに感動を覚えたのと同時に、“数ある地域課題”を目の当たりにして、地域課題の解決に繋がることをやりたいと強く確信しました。しかし、現実はその簡単ではありませんでした。

地域に緑もゆかりもない私が、地域で何か結果を残すためにはどうすれば良いのか。正解が分からないまま私はとにかく地域に通い続け、LPPの活動有無は問わず、地域行事や農作業になるべく参加することで地域と関わっていきました。ただ、すぐには地域課題の解決に繋がる結果を残すことはできませんでした。

そして転機が訪れたのが、色川に関わり始めて4年目、2021年春のことでした。地域への働きかけの結果、学生の私と地域側の代表者の2名が共同代表として運営する「色川クラフトビールプロジェクト」というプロジェクトを立ち上げることになったのです。私はこのプロジェクトに共同代表として、地域の方と対等な立ち位置で地域活動に関わることになりました。このプロジェクトは、色川の風土を活かした地ビール(=色川ビール)をプロデュースすることを通し、色川ビールをきっかけに地域に関わる人(関係人口)を増やすことを目指した協働活動です。色川ビールは2022年1月～10月にかけて4回醸造され、色川と色川外の約300人をつなげ、色川の関係人口創出に一定程度貢献した結果につながりました。

その地域に住んでいないよそ者が地域で何かをすることは、とても難しいことだと思います。しかし、今思うと地道に長い時間をかけて地域とじっくり関わってきたことにより、関係性と信頼性が築かれ、自らがやりたいと思うことの実現に繋がったのではないかと感じています。今春で私は大学を卒業しますが、この経験は今後の社会人生活でも活かしたいと思います。そして私にとって大切な場所となった色川とは今後もずっと関わっていきたいと思います。



■ AY2022 Joint Student Symposium on Tourism, Hospitality and Leisure Research

力本 昂龍さん (14期生 / 大阪府立住吉高等学校出身)



2023年1月21日、2022年度の「Joint Student Symposium on Tourism, Hospitality and Leisure Research」、通称「JSS」がオンラインにて開催されました。JSSとは様々な大学から大学生、大学院生が一堂に集い、自身の研究内容をプレゼンテーション形式で発表、発言する場のことです。ここでの発表や意見、質問などはすべて英語のみで行われます。

様々な人の研究を聞くことで新たな発見もあれば、発表の合間に他大学の学生と交流することもできるという貴重な場になります。日本人の学生が多く参加していましたが、海外留学生も複数参加されており、より英語だけに囲まれている雰囲気が強くなります。初めは、英語で卒業論文を書く予定とはいえ、自分の研究を英語で多くの人の前で発表するのは緊張しました。しかし、実際に当日になってみると思っていたよりも気さくな雰囲気だったので少しは落ち着いて発表に臨むことができました。

私が発表したテーマは、卒業論文に向けて研究中の、「Dark Tourism in Osaka: Recognition of Battlefield Tourism in Osaka Castle」です。大阪城はみなさんご存じの通り、日本で人気な観光スポットの一つであり、国内国外を問わず多くの観光客を呼び寄せています。実は、そんな大阪城には、

第二次世界大戦時の痕跡が多数残されているのです。もともと、大阪城付近には当時の軍隊を関連施設が設置されていたことから、空襲において狙われやすい場所となっていました。今でも1トン爆弾の爆風で押された石垣や軍部の司令部の使用していた建物など様々なモノがあります。しかし、これらの要素はより前面に押し出されるどころか、少しずつ隠れていっています。もともと司令部の建物だったのが今ではレストランや売店の入る商業施設にリノベーションされています。せっかくこのような貴重な建物があるにも関わらず、歴史を伝える形で作り変えられることはありませんでした。この研究から、観光客にこの戦跡の要素がどのように認識されているのか、また、これらの語られない部分をより知ってもらうにはどうすればよいのかを研究していきたいと思います。

JSSではシンポジウム終了後に賞状の授与があります。いくつかの賞が設定されており、私はその中でも革新的な研究をしている人に贈られる「Innovative Research Award」を受賞しました。このように賞を頂けることは大変うれしく、これからも自信をもって研究に励んでいきたいと思っています。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2023013100022/>



■ ガストロノミーツーリズム世界フォーラムのボランティアで実感した世界の凄さ

松井 丈さん (15 期生 / 大阪府立和泉高等学校出身)

2022年12月12日～15日に奈良県で開催された「第7回 UNWTO ガストロノミーツーリズム世界フォーラム」にプロジェクト自主演習の一環である学生ボランティアとして参加してきました。ボランティア活動では、主に参加者の受付、誘導案内などを行いました。また、スケジュール、会場が変更になることが多く、臨機応変に対応し、的確に参加者に説明しなければならないケースも多々ありました。さらに、世界フォーラムということで世界各国からの参加者がおり、英語での対応なども行いました。ガストロノミーツーリズムとは、気候や風土によって生産される、その土地の食文化に触れることを目的とした観光です。

正直、大学生活の中で世界フォーラムに携わることができるとは思ってもいませんでした。フォーラムでの活動は、自分の想像以上のスキルや対応力が求められていました。誘導案内では、ただ参加者を誘導するだけでなく、具体的にどのような配置が適切であるのか、どのような対応が求められるのか、参加者は何を必要としているのかを熟考し、その時々で臨機応変に対応することが求められました。その際に、日頃、私が和歌山城においておもてなし忍者として観光客相手に日々奔走し活動している成果を発揮することができました。

さらに、世界フォーラムならではの特徴として、セッション間のコーヒープレイク、昼食における宗教食等の特別食対応などがありました。英語を使って各国の参加者、VIP と対話する機会もあり、とても充実した経験になり、自分の視野や観点を大きく広げるきっかけになったと感じています。今回は運営者としてフォーラムに参加したことで、参加者とは異なる視点で世界フォーラムを捉えることができました。運営者として活動する事で、領域を世界に広げた際に求められるもの、世界の常識などを十分に知ることができ、これからの国際観光を学ぶ観点にも大きく繋がっていくのではないかと考えています。

また、運営者としてのボランティア活動の後に、実際にフォーラムに参加しました。ガストロノミーツーリズム推進に取り組んでいる全国の自治体、市町村、官公庁などの展示ブースを周り、実際にガストロノミーツーリズムの振興に携わる方から貴重な話を聴くことができました。食文化と観光がドッキングしたガストロノミーツーリズムは、地域の特色を顕著に映し出すものであり、観光振興のアプローチ手段としての可能性を大きく持っているものであると感じました。

この世界フォーラムでの貴重な経験を今後の観光学部生としての学びや活動にしっかりと生かしていくことを考えています。この文章を書きながら、今は鹿児島県の喜界島で村おこしのボランティア活動中です。今後もボランティア活動や実践活動から多種多様な視点、観点を習得していきたいです。



■ 観光学部の学生が地域の魅力を発信～ラジオとイベントを通して～

土井 雄太さん（13期生（2023年3月卒業）／大阪高等学校（大阪府）出身）



今回は私が観光学部の活動として行った「観光学部のFMラジオ番組の制作」と発足時から参加しているLPP活動である「有田市宮原LPP」の2点についてお話をさせていただきます。

まずはラジオ番組の制作です。2022年9月に和歌山県和歌山市のコミュニティFMラジオであるエフエム和歌山と観光学部が共同でラジオ番組を制作するプロジェクトが始動しました。そこで私は番組ディレクターに選んでいただき、番組の制作を1から行うことになりました。そして和歌山大学生、通称「ワダイ生」がラジオを聴いている人が旅に出かけたくくなるような地域の魅力溢れる話題をお届けする番組として『ワダイのタビ』が同年11月から放送を開始しました。学生が週替わりで出演し、1時間の生放送を行う中で、番組制作の難しさにぶつかることが何度もありました。近年、観光映像が普及する中で視覚に頼らないラジオで発信するためには工夫が必要となります。音声だけでも伝わるように擬音語を原稿に多く入れてみたり、抑揚や声量を意識したりと出演学生と何度もリハーサルや話し合いを重ねてより良い番組を届けようと切磋琢磨しました。その中で、エフエム和歌山の方々のご厚意でラジオでの話し方のコツや原稿への温かいご指導をいただき、大変勉強になりました。その結果、放送中のお便りで「ラジオを聴いて現地に行ってみたくくなりました」、「聴き取りやすい声でいつも楽しく聴いています」といった好評の声がフィードバックとして返ってきた際は嬉しさがこみ上げてきました。好評の声をいただいたこともあり、なんと年を跨いで3か月間も番組を持たせて頂きました。出演者である観光学部生の地域の魅力を多くの人に伝えたいという想いによってこの番組を聴いてくださった全国の方々の地域に足を運ぶきっかけとなれば嬉しく思います。

続いて発足3年目の有田市宮原LPPでの活動では、みかんの栽培時に廃棄されてしまう摘果みかんである通称「青みかん」の価値を向上させるというプロジェクトに取り組んでいました。2022年度の活動を終えて、私は1つの節目を迎えた年だと感じました。その理由として青みかんピザの販売があります。酸味の強い青みかんを美味しく食べるためにレシピの改良と試作を2年間重ね、ついに3年目の年に「青みかんピザショップ」を限定で開き地域の方々に食べて頂く機会を設けることができました。作ったピザは完売し、宮原の幅広い年代の方から多くの好評の声を頂きました。4年目を迎える2023年度は、新たな青みかん商品の開発や地域交流イベントでの企画制作が既にスタートしており、期待しています。最後になりましたが宮原地域とみかん農家の方々、そして宮原地域に真摯に向き合う観光学部生と共に活動できて本当に良かったです。これからも宮原青みかんLPPの発展を陰ながら見守り続けたいと思います。皆さま、ありがとうございました。

➡ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022120700095/>
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2023011300042/>

■ 三年間のLPP活動での学び

～地域連携プログラム（LPP）：きみのげんきマップの作成（和歌山県紀美野町）

石関 萌乃さん（14期生／大阪府立泉陽高等学校出身）



私は大学1年生～3年生まで「きみのげんきマップ」というLPPに所属しました。この活動に参加しようと考えたのは、フィールドワークを行うことで座学での学びを活かすことができるのと、高校生の頃から興味があった「地域活性化」を学べると感じたからです。また、私は大阪の都会出身であり、これまで「地域との関わり」を感じにくかったため、大学で地方の和歌山に触れる機会ができたことをきっかけに、積極的に自分の経験に変えようと考えました。今まで、積極的に動くことから無意識に逃げていた私ですが、LPPに参加することで「和歌山大学観光学部でしかできない学び」を全て吸収できると思い、行動に移しました。

私が参加したきみのげんきマップLPPでは、大きく分けて一年生の頃のアンケート調査、二年生の頃はそれをもとにマップ作成に向けてのフィールドワーク、三年生の頃はフィールドワークを行いながら最終目標であるマップ作りにも本格的に取り組みました。そして、同時並行で週に一回学生のためのミーティング、フィールドワーク前後には、紀美野町役場・地域の方々も合同で意見交換や

目標に向けて方針の確認などを行いました。

活動を通して一番印象に残っているのは「紀美野町住民の方々の温かさ」です。住民の方々が集まってお話をしたり運動をしたりするサロン活動に私たち学生が訪れると、私たちのためにお菓子をたくさん用意してくださっていて、そこで町の魅力について語ってくださったり、困っていることについて教えてくださったり、みなさんの孫のお話をしてくださったり、一緒にゲートボールもしていただきました。そんな触れ合いの中で、マップに載せたい情報や次に訪れてみたいスポットなど私たちの活動に役立つたくさんの情報をいただきました。中でも、ある方の「学生ならではの視点が欲しい」という意見が私たちを突き動かし、一つひとつのスポットにキャッチフレーズあてる案や、載せきれなかった画像を動画にし、QRコード化したものをマップに載せる案を導き出すことができました。フィールドワークを行い、実際に地域に触れなければマップは完成していなかったかも知れません。そして、地域に触れることの大切さを学ぶことができました。

「学生主体」の活動であったため困難なこともありましたが、「学生主体」だからこそ学ぶことも多かったです。この三年間の学びを糧に、これからも積極的に行動し、成長し続けていきたいと思えます。



■ 岸和田景観 LPP 「景観資源を巡るウォーキングイベントについて」

～地域連携プログラム（LPP）：景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献
(大阪府岸和田市)

古賀 彩さん (16期生／福岡県立明善高等学校出身)

私たち岸和田景観 LPP は、大阪府岸和田市に多く存在する景観資源を広く市内外へ PR することを目的に、岸和田市都市計画課の方々と連携して活動しています。岸和田市では「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」として、毎年市民から景観資源を募集し、まち景観やみち景観、樹木景観などを指定する取り組みを行っています。私たちはこれらの景観資源を何か有効活用できないかと考え、岸和田市の景観資源を巡るウォーキングイベント「景観資源を見る・知る・楽しむ！きしわだウォークラリー」を令和4年11月27日（日）に開催しました。

イベントでは岸和田城の二の丸公園をスタートとし、紀州街道を通過して、岸和田港へ向かう約30分のルートを設定しました。スタート地点では岸和田市イメージキャラクターのちきりくん、ゴール地点では和歌山大学公式マスコットのわだにゃんにイベントのPRをしてもらいました。「ゆるきゃら」の集客効果は予想以上に高く、当日は40人を超える幅広い世代の方々に参加して頂き、「ゆるきゃら」がイベントに興味を持ってもらうためのきっかけとして絶大な効果があることを確認できました。

イベントの実施に伴い、参加者が景観資源をどれほど認知しているかについてのアンケート調査を行いました。計13名の方から回答を頂き、そのうち岸和田市内在住の参加者は5名で、市外から訪れた方の方が多いという予想外の結果となりました。ウォーキング中に印象に残った場所を答える質問では、1位から岸和田城、岸和田港、紀州街道・自然資料館と、景観資源に指定されている場所が3位までを占めました。またイベントに対する満足度は高く、「知らなかった美しい景観資源を知ることができた」等のうれしい意見があった一方、「ウォークラリーの道中になにか工夫が必要、往復のことを考えると時間が足りない」という意見も頂きました。

初めて自分たちでイベントの企画から運営までを担当し、様々な課題点が見つかりました。主な課題としては、ルート内の工夫不足、ゴール地点の分かりにくさ、スタート地点での参加人数に対してゴールまでたどり着いた人が少なかったこと、準備段階では、段取り不足や情報の共有不足などがあげられます。しかし、それ以上にイベントを開催することで、準備段階では予想出来なかったことに気づいたり、参加者からのご要望などをお聞きしたことで、様々な視点を得ることができました。来年度は今回の反省点を活かし、3年間の本プロジェクトの集大成として、景観資源のさらなる活用方法を考え活動していきます。



➡ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022111800018/>

■ Global Intensive Project (GIP) :

オーストラリア GIP グリフィス大学附属語学学校 GELI Intensive English Learning at Griffith University

田中 美里さん (15 期生 / 大阪府立市岡高等学校出身)



私は 2022 年 8 月 12 日から 9 月 18 日の 39 日間、オーストラリア GIP に参加しました。高校生の頃から、和歌山大学観光学部に入学したら、GIP に参加したいとずっと考えていましたが、2021 年度は新型コロナウイルスの影響もあり、現地での実習が行われていませんでした。今年度に入り、ようやくコロナ禍になってから初めての現地開催で、私自身が GP にプレエントリーしていることもあり、迷わず参加を決めました。現地では週に 5 日、1 日 4 時間の授業を受けました。授業内容は、週に一つのテーマがあり 1 週間でそれについて考え、学びながら英語 4 技能のスキルアップをめざすというものでした。1 クラス 15 人ほどで、授業内ではディスカッションも積極的に取り入れられており、自然と英語を使う機会が用意されていました。はじめは、恥ずかしさや難しさを感じていましたが、せっかく自分の意見があるのに英語だと伝えられないということに悔しさを感じ、うまくなくても発言してみることを意識しました。1 か月間これを繰り返しているうちに自然と英語への抵抗は薄れていったように感じます。先生によって違う授業を展開してくれたため、毎日学校に行くのが楽しかったです。



また、滞在中はホームステイでした。オーストラリアでは雨が少ないため、シャワーの時間が短いというのはよくある話ですが、バスの仕組みが違ったりなど、話を聞いたり、調べたりするだけでは分からないオーストラリアの文化や生活習慣を体感することができ、とても貴重な経験でした。放課後や休日は友人と町や郊外に出かけたり B B Q をしたりと、授業以外の時間もすごく充実していました。



このプログラムに参加し、国籍や文化の違う様々な人との交流を通して、価値観を広げることができました。また、1 か月間様々な経験をしたことで、英語力だけに限らず以前よりも自分に自信が持てるようになったと感じています。そして、英語を日常的に使える場所でアルバイトを始めたり、この GIP がきっかけで、ワダイのタビラジオに出演させていただいたり、帰国した後もこの経験が新しい挑戦のきっかけになってくれていると実感しています。私にとって今回のオーストラリア GIP への参加は初めて日本を離れた経験だったため、不安もたくさんありましたが、それ以上に学びや経験、そして素敵な出会いに溢れた 39 日間を過ごすことができました。参加するにあたってサポートくださった観光実践教育サポートオフィスの皆様、先生方、現地のコーディネーターさん、そしてオーストラリアで出会ったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

■ エラスムスプラス交換留学プログラム： クロアチア・ヴェルン大学 (VERN' University)

岡田 真奈さん (13 期生 (2023 年 3 月卒業) / 兵庫県立豊岡高等学校出身)



昨年開催された W 杯で日本が初のベスト 8 進出をかけた激闘を繰り広げた対戦国、クロアチアに半年間交換留学に行ってきました。(もちろん、現地では I♡日本 T シャツを着て日本を応援してきました。)

サッカーで話題になることが多いクロアチアですが、魔女の宅急便の舞台となったとも言われるアドリア海の真珠、ドロブニクや雄大な自然が広がるプリトヴィツェ国立公園など見どころが多く観光業が盛んで、毎年人口よりも多い観光客が訪れています。そんなクロアチアの首都ザグレブにある VERN 大学で観光学を学びました。特に、観光動機に基づいて新たな観光アトラクションを提案する Tourist attractions and Special Interest Tourism という講義は、自分の趣味や興味を観光に紐づけ、新しい観光の可能性をクラスメイトと考えることができた為、とても興味深かったです。また、観光英語の授業では、文法やリスニングよりも日本と欧州の

観光文化の違いに頭を抱えました。建築様式や観光地などに日本にはない観光文化があり、まずそこを理解しないといけないというのは、しんどいながらも為になる経験でした。

今回の留学が、私にとって初めてのヨーロッパ滞在だったため、毎日が新鮮で刺激的でした。振り返ると人に恵まれた留学生活だったと思います。新しい滞在先が決まるまでの間お世話になったホストファミリーには滞後も気にかけて頂き最後まで本当の家族のように関わらせてもらいました。クラスメイトはほとんど現地の学生でした。彼らと放課後にコーヒーを飲みながらお話ししたのも良い思い出です。ザグレブ内の交換留学生が集まる学生団体によって沢山開催されるイベントでは、VERN 大学に限らず様々な国から多様な学問を学ぶ学生と仲良くなることができました。初めは、VERN 大学初の日本人学生、今semester唯一のアジア人留学生ということで上手く馴染めるか不安でしたが、周りの人達のおかげで、そんな不安は1日目で吹き飛び、楽しく留学生を送ることができました。



私の大学生活は、新型コロナウイルスの流行によって多くの制限のある4年間でしたが、最後の半年間に、「クロアチアへ行く」という高校生の時からの夢が叶って良かったです。

Hvala, vidimo se!

➔ 観光学部 HP

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/global-study/tourism-organization/>

Topics -過去のイベントとニュース-

■ 学内／学部内公開講義を実施しました

2023年度後期も、多彩な講師をゲストスピーカーにお招きし、学内／学部内公開講義を実施しました。

フラメンコを通じたスペイン・アンダルシアの歴史と文化を学び、また、卒業生からは現在のお仕事や学部生時代の活動などの経験談、英語で論文を書くための様々な知識の共有など、多岐にわたるテーマとなりました。

いずれも参加者は熱心に耳を傾けていました。

- ▶2022年11月24日(木)実施：
学内公開講義「フラメンコー踊りと音楽の歴史」
講師：フラメンコ舞踊家 森久美子氏
- ▶2023年1月26日(木)実施：
学部内公開講義「観光学部生のためのロールモデルセミナー」
GP卒業生との交流会
講師：観光学部12期生、ヤマハ発動機株式会社 森田光氏
*観光学部・観光学部同窓会「飛躍会」共催
- ▶2023年2月20日(月)・21日(火)実施：
学部内公開講義「Dissertation準備講座」
講師：観光学部(10期生)2021年3月卒業、
大学院観光学研究科博士前期課程(11期生)2023年3月修了
山岸大二郎氏

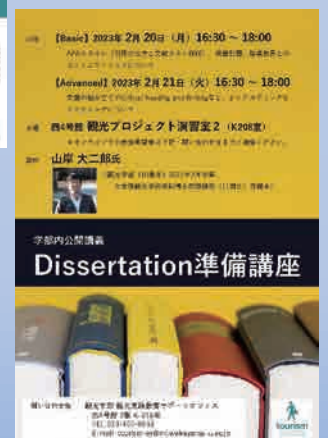


➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022112400057/>

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2023022400021/>

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2023022400038/>



2022年度LPP合同活動報告会：和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」を実施しました



2023年2月2日(木)・3日(金)いずれも16時30分～18時15分に、2019年度以来の対面での「2022年度LPP合同活動報告会：和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」を実施しました。

本会は、2022年度に実施された19プログラムが一堂に会し、一年間の取り組みを広く共有するため、また、学生が活動を振り返り自身の学びと今後の活動のブラッシュアップを図ることを目的としています。

今回は、プログラムごとに活動成果をまとめたポスターによる発表と、LPPに関する5つのテーマについてのグループディスカッションの2部構成で行いました。2日間で延べ148名が参加し、プログラム間の交流・情報共有など活発に行われていました。

各プログラムが作成した「成果ポスター」や、2022年度のLPP活動報告書は、いずれも観光学部HPに掲載しています。是非、ご覧ください。

➔ 観光学部HP <https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2023010400019/>
https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/local_study/lpp.html#jissi-rei

2022年度学位記・修了証書授与式が執り行われました



2023年3月24日(金)、2022年度学位記・修了証書授与式が執り行われ、観光学部生102名、大学院観光学研究科博士前期課程11名、博士後期課程2名が、それぞれ学士・修士・博士の学位を取得し、新たなステージへと旅立ちました。

和歌山ビッグホールでの学位記授与式、西4号館T101教室での各種表彰式(学部成績優秀者表彰、卒業論文賞表彰、修士論文賞表彰、ピアサポート表彰、学部長表彰・研究科長表彰、グローバル・プログラム(GP)認定証明書授与、観光学部教員表彰)等が執り行われました。

卒業生・修了生皆様の今後のご活躍を期待しています。

Future Events —今後のイベント紹介—

TOURISM CAFÉ「GIP/LPP 経験者ラウンドテーブル@Zoom」を開催します！



2023年4月10日(月)13時10分～14時40分、観光実践教育サポートオフィスによるTOURISM CAFÉ「GIP/LPP 経験者ラウンドテーブル@Zoom」(全学年対象)を開催します。

Zoom URLなどの詳細は、新入生ガイダンス/在学生ガイダンスで配布している「観光実践教育サポートオフィスからのお知らせ」をご覧ください。

編集・発行

(2023年4月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学西4号館K216室、K116室

TEL 073-457-8553 / E-mail tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp / URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

*本誌はWebページからも閲覧できます→<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/fuzoku/tourism-education-research/WTU.html>

